

第 2 回 複合施設等整備検討委員会 開催結果概要

1 開催概要

- (1) 日時
平成 31 年 1 月 8 日（火） 午後 3 時 30 分から 5 時 10 分
- (2) 場所
アミューあつぎ 7 階 ミュージックルーム 2
- (3) 出席者
ア 委員 委員 22 人
イ 事務局職員 都市整備部、政策部、こども未来部、社会教育部
- (4) 案件
ア 第 1 回複合施設等整備検討委員会開催概要について
イ （仮称）複合施設等整備基本計画の構成（案）について
ウ 複合施設の整備コンセプト（案）について
エ 複合施設のフロア構成イメージ（案）について
オ 厚木バスセンターの再整備の考え方（案）について
カ 複合施設等の整備に関する市民アンケート調査（案）について

2 主な質問・意見

- (1) 新たな複合施設は、これからの厚木のシンボルになると思う。現在の課題への対策だけでなく、将来に対する対策も必要だろう。
⇒ 厚木市の人口推計では、2060 年でも 19 万人の人口は維持できるという結果になっている。たとえば、新庁舎整備基本構想に新庁舎を将来変化に柔軟に対応できる施設としていく考え方を記載している。人口減少社会に対応するための考え方については、それぞれの施設の基本構想を踏まえて複合施設の基本計画（案）にも位置付けていく。
- (2) 厚木市は昼間人口が多いので、働きに来ている人が仕事後にそのまま帰ってしまうのではなく、その人たちにとってもサードプレイスになるとよい。
- (3) 整備コンセプトは、複合施設の内側に対する考え方しか言及していない。建物の内側だけでなく、周辺に与える影響についても考慮していく必要がある。
⇒ 中町第 2-2 地区周辺の既存施設との連携についても、整備コンセプトに位置付けていきたい。
- (4) ハード整備だけでコンセプトが満たせるわけではないと思う。サードプレイスの実現のためには、施設運営のソフト面での仕掛けも考えていく必要があるだろう。

- ⇒ 整備後の施設運営までを考慮した上で、建物の在り方を考えていきたい。
- (5) 複合施設がサードプレイスとしての拠点性が高まりすぎると周辺への回遊性が失われる可能性があるということに注意する必要があるだろう。
- ⇒ 基本計画（案）には、現本庁舎敷地の活用方法についても示していく。複合施設の建設予定地だけでなく、現本庁舎敷地も活用しながら、まち全体の回遊性や「歩いて楽しいまち」のコンセプトを実現していきたいと考えている。
- (6) 中町大型バス発着場は、検討の対象ではないのか。
- ⇒ 中町大型バス発着場は、旧保健センター跡地の今後の活用に向けた暫定整備であるが、厚木バスセンターの再整備と併せて中町大型バス発着場を再整備することは現在のところ考えていない。
- (7) 厚木バスセンターの再整備の考え方として、安全な歩行者空間の確保を前提にして考えてもらいたい。
- ⇒ 現在の厚木バスセンターの課題として、路線バスと歩行者の錯綜を掲げており、それらの課題を解決するために再整備が必要であると考えている。
- (8) 資料 p19 アンケート Q 5（交流機能として必要なもの）は、図書館、（仮称）こども未来館、庁舎以外にも別の施設が入る余地があるということか。
- ⇒ 3つの施設以外にも交流機能として、複合施設の中に広場などを整備していく考えを持っている。市民の皆様が必要としている機能を複合施設の中に整備していきたい。
- (9) 資料 p 19 アンケート Q 6 の選択肢②の表現「それぞれの利用者が干渉しないよう」というのは、再考したほうがよい。
- ⇒ もう少し理解しやすいような表現に再考する。

3 会議開催後にいただいた意見

- (1) 中心市街地のまちづくりのテーマである「歩いて楽しいまち」を実現するには、魅力のある場所が点在することが不可欠だろう。市民生活にとって重要な3つの機能（図書館、（仮称）こども未来館、市庁舎）を集約するとき、そのテーマとの関係について、具体的な提案、対策を示す必要がある。
- (2) 市民生活にとって重要な3つの機能（図書館、（仮称）こども未来館、市庁舎）を集約するとき、人と車の流れを最適化することが不可欠だろう。特に、本厚木駅東口交差点はすでに飽和状態にあり、新たに発生する人と車を加えた、具体的なシミュレーションや対策を示してほしい。
- (3) 厚木バスセンターの再整備に当たっては、駅周辺のバス交通のあり方を整理する必要がある。
- (4) 複合施設に中高生の居場所（例：会話スペース、遊戯室、自習室）を設けてはどうか。
- (5) 情報インフラの整備（5G環境への対応）を盛り込んだほうがよい。これからの社会は、この部分への投資が差別化の一番の鍵になる。

- (6) 厚木バスセンターと厚木シティプラザの検討計画が不明確である。
- (7) 将来的には、更なる防災対策の強化が必要となると想定されることから、十分な事務スペースの確保と建物強度の確保が必要である。
- (8) 屋上には防災ヘリ等の発着場を確保する必要がある。また、将来的には、ドローンによる有人の発着場も必要となるだろう。
- (9) サードプレイスを目指すのであれば、複数のカフェやレストランは必須である。コンビニエンスストアも最低1つは必要である。市民も利用可能な職員食堂も設置するだろう。テナントから賃料を得て、将来の税収入の減少に備えるべきである。
- (10) アンケートQ5（交流機能として必要なもの）は、必要最小限とするのか、あるいは、最上階に展望レストランを兼ねた施設を設置するのかなどの提案があってもよいのではないか。厚木市内で働く人が、夜間に楽しめる魅力のあるスペース確保が必要である。
- (11) Q6（融合連携か別々に整備か）は、連携をコンセプトに掲げていく以上、設問として必要であるか疑問である。連携不要な独立させるべき施設や配慮が必要な施設は何かを尋ねるべきである。
- (12) Q9（バスセンター）は、座って待てる場所がない。バス待ち環境に関する質問も加えたほうがよい。
- (13) 複合施設整備の目的や必要性が少し曖昧でインパクトが弱い様に感じる。本施策の目的や必要性について、現状の課題を解決だけでなく、今後の社会環境変化に対応し、市民の安心安全を将来に渡って維持・推進するため、本施策がどうして必要かを具体的事例とその効果予測を整理できれば施策の必要性がさらに深まるだろう。分散している市庁舎、図書館、こども科学館、消防などの機能を施設内に統合することで得られる効果についても記載した方がよい。
- (14) 図書館、(仮称)こども未来館の機能強化については、複合施設内に取り込むメリットの整理が必要ではないか。例として、①運営管理の容易性、②維持管理コストの削減、③次世代環境に対応した幼児・子どもの教育環境の機能強化、④超高齢社会における子どもと高齢者をつなぐ市民間交流・ふれあいの促進、などが考えられるのではないか。
- (15) 厚木バスセンター周辺整備と現本庁舎敷地の跡地利用については、複合施設整備とは分離し、中心市街地の活性化を図る計画として整理した方が市民の理解は得やすいのではないか。
- (16) 消防本部・災害対策本部は、災害時に利用しやすい低層部への配置が望ましいのではないか。
- (17) 厚木バスセンター、厚木シティプラザ、複合施設は、一体的に整備したほうがよい。シティプラザは、本厚木駅からの人の流れを受け止める屋外広場としてはどうか。
- (18) 駐車場台数280台は、想定が少ない。当複合施設以外の周辺の施設や店舗利用者の車を収容できる台数確保が望まれる。